

# SYDかわらばん

〈最新活動情報 No.143〉 2020年9月18日号

## ～歴史探訪～関東大震災と修養団

9月1日は、大正12年に発生した関東大震災を由来とする「防災の日」。自然災害について認識を深め、それらの災害に対処する心構えは一層重要になっています。

修養団は関東大震災において被災者への救護・救済活動を展開しました。その活動はのちの阪神・淡路大震災、東日本大震災などの地震災害や、風水害による被災地でのボランティア活動にも受け継がれています。

### 震災前後の修養団

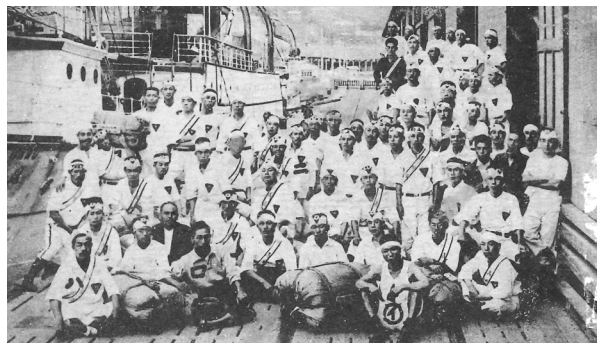


修養団救護部による  
バラック建築工事

大正12年は、修養団にとって激動の1年となった。2月、文部・内務の両省から財団法人の認可を受け、5月5日には「ぜんこくそうだちび全国総立日」(全国一斉に美化活動などをおこなう日)を各地で開催するなど活発な活動を展開する一方、8月15日に初代団長・田尻稻次郎が急逝。そのわずか半月後に関東大震災が発生し、修養団は本部と、第一・第二・第四・第六向上舎(学生寄宿舎)を焼失。その後、本部の焼跡にトタンなどで仮事務所を建てた。

初代主幹・蓮沼門三は震災当時、満州・朝鮮に出向いていたが、続々飛び込む惨状に心を揺さぶられ、「本部焼失も人的被害なし」の電報に涙するとともに、罹災した同胞への祈りの中で講習会や講演会に従事し、9月21日に帰京。

9月27日、本部内に「修養団救護部」が臨時に創設された。



朝鮮から救援物資を運び、救護活動奉仕をおこなった「朝鮮修養団義勇隊」

### 救護部の主な活動

- ①政府貯蔵米倉庫(6か所)の管理・警備  
罹災者への配給等の救援奉仕  
支部員、東京市内の団員など48人が協力し、翌13年2月まで奉仕。
- ②無料天幕宿泊所の開設  
芝公園内の市有地約400坪の無償貸与、天幕と寝具の配給を受け開設。毎夜30～40人が宿泊した。
- ③全国支部・連合会同志の受け入れ  
復興支援のために上京した同志の宿舎手配など受け入れをおこなった。  
なお、上京した同志は前述の米倉庫の管理・警備を昼夜交替でおこなったほか、罹災者救援物資の整理・配給などにあたった。
- ④木材の管理と配給  
アメリカ合衆国から復興資材として寄贈された木材3万石に対し、内務省より委託を受け翌13年6月まで、管理と社会事業施設への配給活動をおこなった。
- ⑤天幕図書館、簡易食堂の開設  
芝公園内に「市民の心の糧」として天幕図書館を開設し、その隣に簡易食堂を設け、安価で栄養に富んだ食事を提供した。

### 社会事業部の誕生

大正12年12月、救護部は「社会事業部」として正式に発足。当初は東京府の委託による簡易宿泊所の建設と経営を展開するとともに教育訓練、就職の斡旋をおこなう。その後病院の開設、貧困家庭への野菜配給、貯蓄の推進など、多彩な活動を推進した。

※詳細は号を改めてご紹介いたします

## その後の主な災害支援

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災に際し、SYD本部では各地の支部・連合会の会員などに参加を呼びかけ、現地での支援・交流活動を平成10年まで実施。また、修養団埼玉県連合会、修養団岐阜県連合会などが独自に現地入りし活動をおこなったほか、SYD関西(当時)のメンバーは震災後5年にわたり、年末に仮設住宅で餅つきをおこない、住民との交流を図った。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、現在に至るまで活動を展開しており、被災地での復興支援、また仮設住宅における交流活動での訪問は、既に120回以上に及んでいる。また、近年では平成28年の熊本地震、平成30年の西日本豪雨、また昨年発生した千葉県での台風災害にもボランティア活動として現地赶赴している。



## 主催事業・活動等

### 報告

#### 9/11…第1回「オンライン青年ボランティア・ゼミナール」47人

SYD本部会議室で実施してきた「青年ボランティア・ゼミナール」を、新たな試みとしてインターネット配信(ZOOM)を用いてセミナーを実施した。

講師の松本 悠<sup>はるか</sup>さん(飛鳥未来さずな高等学校教頭)が「教えを志す人として」と題し、現職だけでなく現在取り組んでいるアフリカ・ルワンダでの教育支援活動、若手教員の集う会、講演活動について講演した。

また、教員4年目で経験した「命」にまつわる体験や自身が罹患している病などから、新たな支援を始めた原動力や想い、生き方を熱く語り、参加者はパソコンやスマートフォンの画面を通して真剣に耳を傾けた。



#### 11/14…「幸せの種まき祭り」[東京都渋谷区・SYD本部]

本年は、新型コロナウイルス感染防止の観点から「チャリティーバザー」のみの開催いたします。

事業の収益金はSYD「幸せの種まき献金」を通じてストリートチルドレンや災害被災者支援に役立てます。

### バザー品提供のお願い

〈提供品は以下に限定させていただきます〉

- ・日用品(タオル、シーツ、石鹸等)※未使用品
- ・野菜
- ・特産品(もち米、お米、海産物、菓子等)

ご提供いただける場合は、お電話、ファクシミリ、Eメール等でご一報ください。

#### 〈発行・連絡先〉

SYD(公益財団法人修養団) 社会教育部  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2  
☎03(3405)5441 FAX03(3405)5424  
E-mail : info@syd.or.jp  
ホームページ : https://syd.or.jp/

SYD

検索